



TITLE:

表紙、序、例言、目次、図版目次
、挿図目次、表目次、奥付、正誤
表

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙、序、例言、目次、図版目次、挿図目次、表目次、奥付、正誤表.
京都大学構内遺跡調査研究年報 1983, 1981

ISSUE DATE:

1983-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/227330>

RIGHT:

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和56年度

京都大学埋蔵文化財研究センター

序

研究成果というものは、一篇の論文によっても発表できるが、その成果が一般に認識され、活用されるためには、それにつづく多くの論文の積み重ねが必要である。まして、研究機関の業績にいたっては、成果の積み重ねこそが大事である。当研究センターも、研究年報の数が増えるごとに、その存在価値が広く認められるようになってきた。本年報も、その長き将来への道の一里塚としての意味をもつものである。

京都大学吉田キャンパスの敷地は、京都市の東北隅の一角をしめるにすぎないが、縄文時代から近世にいたる各時代の遺構が累積しており、調査が精密でさえあれば、その成果は、日本の考古学研究に極めて有効な資料を提供しうるのである。しかも、当大学の敷地は、全国各地に分散しており、今回報告する京都府丹波町美月遺跡は、由良川水系上流の新発見の遺跡である。

今回もまた、多くの人々の御援助をいただいた。とくに、美月遺跡の調査にあたっては、京都府教育委員会をはじめ、丹波町、園部町、綾部市、福知山市の各教育委員会や、東急建設株式会社などの御世話になった。とくに、農学部附属牧場の善林明治助教授には公私にわたる御協力をいただき、感謝にたえない。

最後に、初代のセンター長をつとめさせていただいた小生も、本年4月1日退官することになったが、当センターの運営に関して、全面的に御援助いただいた本学関係当局、とくに施設部、経理部に対して、あつく御礼を申し上げるとともに、不十分な条件下によく頑張ってくれたセンター職員の諸兄弟に対しても、感謝の念を禁じえない。

昭和58年2月

京都大学埋蔵文化財研究センター長

樋 口 隆 康

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で昭和56年4月から同57年3月末日までに発掘、整理作業を終了した埋蔵文化財調査と保存の報告および京都大学構内遺跡に関する研究をまとめたものである。
- 2 国土座標に従って一辺50mの方形の地区割をして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、国土座標第6座標系($x = -108,000$ $y = -20,000$)が($X = 2,000$ $Y = 2,000$)となる京都大学構内座標によって表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良国立文化財研究所の方式に従って、井戸：SE、道路：SFのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物のうち、土師器の分類は、『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ——白河北殿北辺の調査——』で示したものに従った。
- 6 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通して表示を統一した。
Ⅰ：京都大学本部構内AX28区の発掘調査
Ⅱ：京都大学教養部構内AO21区の発掘調査
Ⅲ：京都大学北部構内BD30区の発掘調査
Ⅳ：京都府美月遺跡の発掘調査
Ⅴ：昭和56年度京都大学構内の試掘・立合調査
(例 ⅠⅠ：京都大学本部構内AX28区出土遺物1番)
- 7 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のものは、それぞれに縮尺を明示した。
- 8 注は、各章ごとにまとめて章末に記載した。また、第Ⅰ部の参考文献は、本文中に、[著者名 発表年]の形式で表わし、第Ⅰ部の末に一括した。第Ⅱ部については、各章末の注に一括して記載した。
- 9 遺構・遺物の実測と製図は、泉拓良、清水芳裕、五十川伸矢、浜崎一志、吉野治雄、飛野博文、津隈久美子、川島はる代がおこなった。遺物の撮影は、清水が担当した。
- 10 本文は、樋口隆康、川上真、泉拓良、清水芳裕、五十川伸矢、浜崎一志、飛野博文が各章を分担執筆した。執筆者名は、各章の初めに記した。
- 11 編集は、樋口の指導のもとに泉、五十川がおこない、清水、浜崎、飛野が協力した。

京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和56年度

目 次

第1部 京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 昭和56年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の大要	1
2 調査の成果	2
第2章 京都大学本部構内AX28区の発掘調査	5
1 調査の経過	5
2 層 位	5
3 遺構と遺物	7
4 小 結	14
第3章 京都大学教養部構内AO21区の発掘調査	17
1 調査の経過	17
2 層 位	17
3 遺 構	18
4 遺 物	19
5 小 結	24
第4章 京都大学北部構内BD30区の発掘調査	25
1 調査の経過	25
2 層 位	25
3 近世の遺構	26
4 古代の遺構	27
5 遺 物	27
6 小 結	30

第5章 京都府美月遺跡の発掘調査	31
1 層 位	32
2 遺 構	33
3 遺 物	36
4 小 結	38
第6章 昭和56年度京都大学構内の試掘・立合調査	39
1 北部構内	39
2 本部構内	41
3 教養部・医学部・病院構内	43
参 考 文 献	46
京都大学構内遺跡調査要項	48

第Ⅱ部 京都大学埋蔵文化財研究センター紀要

第1章 浄蓮華院と吉田構	57
——応仁の乱後の吉田の復原的考察——	
1 はじめに	57
2 浄蓮華院と吉田社領	57
3 吉 田 構	58
4 近世の吉田村	62
5 小 結	64
第2章 山城の弥生後期の土器	67
——京都市左京区岡崎南御所町採集の土器について——	
1 はじめに	67
2 遺跡の概要	68
3 遺 物	68
4 おわりに	74

図 版 目 次

- 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点
- 2 京都大学本部構内 A X 28 区
 - 1 近世遺構全景(南から)
 - 2 中世遺構全景(南から)
- 3 京都大学本部構内 A X 28 区
 - 1 道路 S F 1, 杭列 S A 1, 溝 S D 18(東から)
 - 2 道路 S F 1, 野壺 S E 2 ~ S E 9, 溝 S D 20(東から)
- 4 京都大学本部構内 A X 28 区
 - 1 建物 S B 1(北から)
 - 2 井戸 S E 62(北から)
 - 3 土器溜 S K 51(東から)
- 5 京都大学本部構内 A X 28 区
S D 20・S D 18出土遺物, 銅鏃, 磨製石鏃
- 6 京都大学本部構内 A X 28 区
S K 51出土遺物
- 7 京都大学教養部構内 A O 21 区
 - 1 遺跡発掘後全景(北から)
 - 2 土器溜 S K 1(東から)
 - 3 土墳墓 S K 4(南から)
- 8 京都大学教養部構内 A O 21 区
S E 6出土遺物
- 9 京都大学教養部構内 A O 21 区
S E 6・S E 3出土遺物
- 10 京都大学北部構内 B D 30 区
 - 1 近世遺構全景(北から)
 - 2 古代遺構全景(北から)
- 11 京都大学北部構内 B D 30 区
 - 1 調査区東壁の層位
 - 2 土 石 流(南から)

12 京都府美月遺跡

- 1 調査区と周辺の地形(北西から) 2 土坑SK1検出(南東から)
3 土坑SK3(西から)

13 京都府美月遺跡

- 1 溝SD16の検出とSD15(北から) 2 土坑SK4(西から)
3 溝SD17(西から)

14 京都府美月遺跡

SK4・SD17・淡茶褐色土層・黒褐色土層出土遺物

15 京都府美月遺跡

SD17・淡茶褐色土層・SR1上層・SD15・SB4・黒褐色土層・SK2出土遺物

16 岡崎南御所町採集の土器(1)

17 岡崎南御所町採集の土器(2)

挿 図 目 次

図1 本山窯採集の緑釉陶器, 灰釉陶器, 須恵器	4
図2 調査区中央南北畔西壁の層位〔京都大学本部構内AX28区の発掘調査〕	6
図3 近世の遺構	7
図4 道路SF1周辺の層位	8
図5 SD20出土遺物, SD18出土遺物	9
図6 中世の遺構	11
図7 SK51出土遺物	12
図8 SK51出土軒瓦, SE62出土軒瓦	13
図9 銅鏃, 磨製石鏃	14
図10 近世絵図にあらわれた白川道	15
図11 調査区東壁と西壁の層位〔京都大学教養部構内AO21区の発掘調査〕	17
図12 検出遺構	18
図13 土壇墓SK4	19
図14 SE6出土遺物	20

図15	S E 3 出土遺物, S K 1 出土遺物	21
図16	調査区東壁の層位〔京都大学北部構内 B D 30 区の発掘調査〕	25
図17	近世の遺構	26
図18	古代の遺構	27
図19	縄文・弥生時代の遺物	28
図20	S K 1 ~ S K 7 ・ S D 19 ・ S A 11 ・ 暗褐色土層・赤褐色土層出土遺物	29
図21	調査区出土軒平瓦	30
図22	調査地点と周辺の地形〔京都府美月遺跡の発掘調査〕	31
図23	調査区北壁の層位	32
図24	現代・近代の遺構	33
図25	平安・弥生時代の遺構	34
図26	土坑 S K 4 , 土坑 S K 3	35
図27	S K 4 ・ S D 17 ・ S R 1 上層・淡茶褐色土層・黒褐色土層・ S D 15 出土遺物	37
図28	S B 4 ・ 淡茶褐色土層・黒褐色土層・ S K 2 ・ S R 1 上層出土遺物	38
図29	北部構内の調査位置〔昭和56年度京都大学構内の試掘・立合調査〕	39
図30	北部構内試掘調査の層位	40
図31	本部構内の調査位置	41
図32	近世の道路	42
図33	北部構内103地点第12層・本部構内 E 地点土器溜・ 医学部構内106・107地点出土遺物	43
図34	医学部構内試掘調査の層位	44
図35	教養部・医学部・病院構内の調査位置	44
図36	町田家本洛中洛外絵図〔浄蓮華院と吉田構〕	60
図37	吉田春日社, 新長谷寺の図	62
図38	吉田社家住宅配図	63
図39	吉田社周辺絵図	63
図40	吉田村の復原図	65
図41	岡崎遺跡とその周辺〔山城の弥生後期の土器〕	67
図42	岡崎南御所町採集の土器(1)	69
図43	岡崎南御所町採集の土器(2)	71

表 目 次

表1	SE 6出土遺物	23
表2	SE 3出土遺物	23
表3	SK 1出土遺物	23
表4	京都大学構内遺跡のおもな調査	53
表5	『兼見卿記』にみる 吉田構の主要関連記事	61

昭和58年2月24日印刷

昭和58年3月31日発行

京都大学構内遺跡調査研究年報

昭和56年度

編集 京都大学埋蔵文化財研究センター
発行 京都市左京区吉田本町

印刷 山代印刷株式会社
製本 京都市上京区寺之内通小川西入

正 誤 表

		誤	正
本文	vii 頁 6 行	『兼見卿記』	『兼見卿記』
	36 頁 21 行	IV 12	IV 11
	66 頁 注 3	記念史学論文	記念史学論文
	67 頁 見出し	南御所探集	南御所町探集
	68 頁 23 行	3 遺 物 (図 42・43)	3 遺 物 (図版 16・17, 図 42・43)
図表	15 頁 図 10	元禄 4 (1692) 年	元禄 4 (1691) 年
	38 頁 図 28	IV 21 ~ IV 24	IV 22 ~ IV 24
	61 頁 表 5-18 行	馬場之本一本	馬場之木一本
図版	14	SK 4 出土遺物 (IV 1・ IV 2 弥生土器)	SK 4 出土遺物 (IV 1 弥生土 器)
	14	SD 17 出土遺物 (IV 3 弥生土器)	SD 17 出土遺物 (IV 2・ IV 3 弥生土器)